



Web Fairy

第117号 Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第99回 WFP 作品展(再掲)
- ・ 第100回 WFP 作品展(一人一作展)
- ・ やさしい(?)ImitatorPART2(占魚亭)
- ・ 今川健一氏追悼出題

結果発表

- ・ 第98回 WFP フェアリー作品展
- ・ Fairy of the Forest #54

読み物

- ・ FairyTopIX2017 お気に入り投票要項

(改訂:2018/3/21)



2018/3

はじめに



桜

1月は行く、2月は逃げる、3月は去るなどと言いますが、今年も年が明けたと思いきやあつという間に3月も下旬となってしまいました。昨日、松山市では桜の開花宣言が出されましたが、昨日から冷たい雨が降っており、まだ春は遠からじというところでしょうか。

私はというと仕事柄年度末は工事が立て込みなかなか作品創作や解答に取り組む時間が取れないことが多いのですが、今年はやや前倒しになったため12月～1月が多忙で2～3月はちょっと余裕があるという稀な状況でちょっと調子が狂っております。というわけで詰パラやWFPの解答にもちょっとばかり気合を入れて取り組んでおります。今月は第100回WFP作品展(一人一作展)という目玉企画が用意されています。錚々たる面々の錚々たる作品群だと思しますので是非解答にチャレンジしてみてください。

さて解答強豪の今川さんの訃報という悲しい出来事もありましたが、今月号にFairy Top IX 2017 お気に入り投票の要項を掲載しております。2017年にWFPに掲載された作品の中から部門別にお気に入り作品NO.1～3を表彰(名誉以外何もありません)する企画です。

候補作一覧は来月初めにアップする予定ですので、それを確認の上投票頂ければと思います。

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第117号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん : takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々のHPアドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

占魚亭残日録

<http://d.hatena.ne.jp/sengyotei/>

今月は変則的構成です。第100回WFP作品展は別項に分け、第99回出題分のみ、ここにまとめました。

〔第99回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第99回の出題は10題。内訳は変寝夢氏5題、占魚亭氏1題、上谷直希氏2題、たくぼん氏・尾形充氏が各1題です。作稿の都合上、作品は投稿順に並んでいます。その結果WFP作品展の出題番号99-9という「ゾロ目」はたくぼん氏がゲットしました。もちろん並び順と難易度には何の相関もありません。

99-1～99-5は変寝夢氏の作品群。すっかりお馴染みになったレトロ、リパブリカン、中立駒に加え、Eagle(鷲)、Sparrow(雀)、Moose(麋)というGrasshopperの変種が登場します。それぞれ挙動が異なるので、混同しないようにしてください。特にSparrowとMooseの混同には要注意です。最近だと83-8でEagleが、95-4でSparrowが、76-10でMooseが登場しているので、参考にしてください。

99-6は占魚亭氏の作品。中立NightRiderと中立Grasshopperが使用されています。かなりの難物なのでヒントを出しておきましょう。受方持駒には中立NightRiderと中立Grasshopperが追加されていますが、そのうち合駒として作意に登場するのは一種類だけです。また、中立駒以外の合駒も登場します。

99-7と99-8は上谷直希氏の短編協力詰。これはノーヒントで解いてください。また、99-7はツイン(組局)になっているので、なるべく両方解いてください。

99-9はたくぼん氏の強欲協力自玉詰。強欲協力詰ではありません。詰めるのは攻方玉の方なのでお間違えなく。

99-10は尾形充氏の最悪詰。最悪詰の感覚に慣れていれば決して難しい作品ではありませんが、合駒が登場するので、変化・紛れをしっかりと読み切ってください。

ルール説明

※WFPのページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule97.pdf>)があるので、それも参考にしてください。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【レトロ -m+n手】

m手逆算してn手で詰む手順を求める。

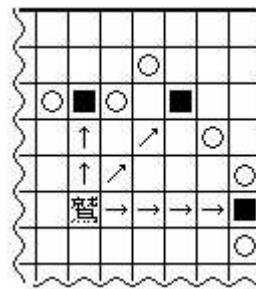
(補足)

- 1) 特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2) 協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数の逆算や短い手数の詰手順が成立する場合、それが優先される。

【Eagle】(鷲)

フェアリーチェスのEagle。

グラスホッパーの変種で、Queenの利きの方向にある駒に到達した後、進行方向に対し90°曲がった場所に着地する。

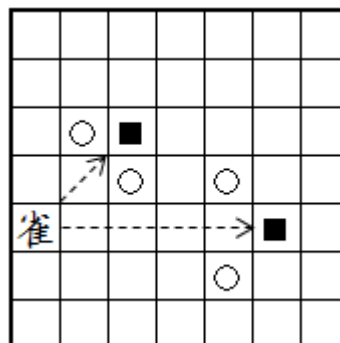


(○が鷲の利き。■は敵または味方の駒。)

【Sparrow】(雀)

フェアリーチェスのSparrow(雀)。

グラスホッパーの変種で、Queenの利きの方向にある駒に到達した後、進行方向に対し135°曲がった場所に着地する。

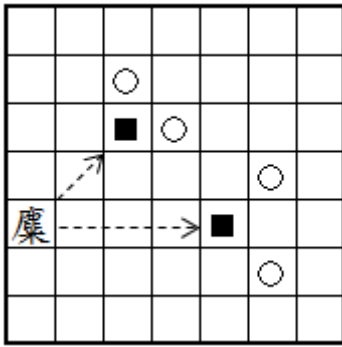


(○が雀の利き。■は敵または味方の駒。)

【Moose】(麋)

フェアリーチェスのMoose(麋)。

グラスホッパーの変種で、Queenの利きの方向にある駒に到達した後、進行方向に対し45°曲がった場所に着地する。



(○が虞の利き。■は敵または味方の駒。)

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【リパブリカン】

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。

(補足)

- 1) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 2) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
- 3) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。自玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。

【中立駒】 (「n駒」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる (利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。

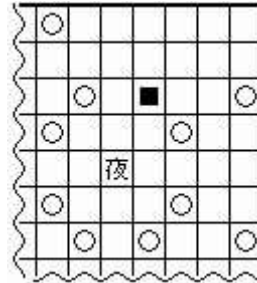
6) 中立駒は行き所ない駒にならない。

7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

【NightRider】 (夜)

フェアリーチェスの NightRider。

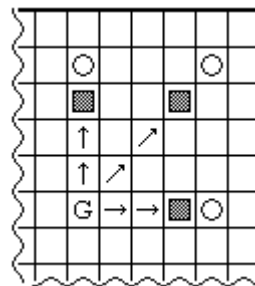
ナイトの利きの方向に連続飛びができる。



(○がナイトライダーの利き。■に駒があるとそこから先には利かない。)

【Grasshopper】 (G)

フェアリーチェスの駒。クィーンの線上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



(○がGの利き)

(補足)

- ・飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- ・パオと違って飛び越さないと動けない。動ける場所も飛び越えた駒の隣だけ。
- ・成ることはできない。
- ・2つ以上の駒は飛び越せない。

【強欲】

駒を取る手を優先して着手を選ぶ。

【最悪詰】

攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように応じる。



《第 99 回》解答締切：2018 年 4 月 15 日（日）

■ 99-1 変寝夢氏作

レト口協力詰 -2+1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								科	王	一
										二
								と		三
								飛		四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 歩

■ 99-2 変寝夢氏作

協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									王	一
									科	二
									飛	三
										四
										五
								歩	王	六
										七
										八
										九

持駒 鷲

※鷲:Eagle

■ 99-3 変寝夢氏作

協力詰 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
									飛	六
									王	七
								又	雀	八
										九

持駒 雀

※雀:Sparrow

■ 99-4 変寝夢氏作

協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
								爵		三
						麋		王		四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 麋

※麋:Moose

■ 99-5 変寝夢氏作

リパブリカン協力白玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
								王		四
										五
										六
										七
							歩	桂		八
								角		九

持駒 なし

※28桂・39角は中立駒

■ 99-6 占魚亭氏作

協力白玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
								王		二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

攻方持駒 n夜2 nG

受方持駒 残り全部+n夜4 nG4

※夜:中立Nightrider

G:中立Grasshopper

■ 99-7 上谷直希氏作

a) 協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
		と	と					三
		角		王		又		四
				歩	歩			五
								六
								七
馬								八
								九

持駒 銀

b) 協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
		と	と					三
		角		王		又		四
				歩	歩			五
								六
								七
馬								八
								九

持駒 銀

■ 99-8 上谷直希氏作

協力詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
					龍			一
					龍			二
						皇	皇	三
						王	王	四
								五
						王		六
								七
								八
								九

持駒 なし

■ 99-9 たくぼん氏作

強欲協力自玉詰 76手

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
							と	と	王	一
							と	と	と	二
							と	と	桂	三
							と	と	又	四
							桂	杏	と	五
	又						馬	全	又	六
金	又	歩	と	銀			香	皇	又	七
	又	銀	龍	龍			又	馬	又	八
王		桂		又			杏	歩	桂	九

持駒 なし

■ 99-10 尾形充氏作

最悪詰 17手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
			龍						四
							銀	桂	五
			角						六
							飛		七
								王	八
								角	九

持駒 金

以上





3月も後半になりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。季節は梅がそろそろ終わり、桃や桜の花が咲く頃合いになっています。

WFP 誌の常設作品展である本作品展も、記念すべき第 100 回を迎えました。今回は記念回の特別企画として「一人一作展」を行います。おかげさまで 12 人の皆様から投稿を戴き、これに担当の作品を加え、全 13 作をお届けできることになりました。どれも個性的な作品で、記念回にふさわしい賑やかな作品展になったと思います。

作品は後ほどご覧いただくとして、今までの WFP 作品展の歩みを、ほんの一端だけですが、振り返ってみたいと思います。

WFP 第 0 号が発刊されたのが 2008 年 6 月。このときはまだ「試運転」の段階で、WFP 作品展はありません。2008 年 8 月に発刊された WFP 第 2 号に「第 1 回フェアリー作品展」の名前で WFP 作品展が始まります。担当は紅月花煉氏。出題はフェアリー 5 題と、プルーフゲーム・推理将棋が 3 題でした。WFP 第 3 号に掲載された結果稿で名前が「第 1 回 WFP 作品展」に変わり、以来継続して「WFP 作品展」の名称が続いています。（余談ですが、筆者はこの回の発表作で余話を出してしまいました。その節はご迷惑をお掛けしました。）

筆者が本作品展を担当するようになったのは第 30 回からです。交替早々に先の大震災があり、多難な時期でしたが、そんな時こそ文化の火を絶やさぬようにと奮い立った記憶もあります。

また、現行のような出題形式に落ち着くまでは若干の試行錯誤がありました。当初は出題後一ヶ月が解答締切という、今から思えば無茶な方式だったのですが、難問だけ締切を長くするとか、投

稿数に応じてコース分けをするなどの試行錯誤を繰り返した後、第45回あたりから解答締切を原則出題後二ヶ月とする現在の方式に落ち着きました。当時の自分はまだ締切を出題後一ヶ月に戻そうと思っていたらしいのですが、投稿作が増えるに従ってそれは不可能となりました。これは投稿が増えて作品展が盛り上がってきた結果なので、むしろ嬉しい誤算と言えます。

WFP 作品展の変遷は解答の状況からも伺うことができます。以下の2つは各年毎の解答成績から、2011年分と2017年分を取り出したものですが、これだけでもいろいろなことが分かります。

例えば、解答成績トップの方の解答数の「計」を見てください。本作品展では難易にかかわらず1問1点を基本としているので、そこからおよそその出題数が分かります。最近では年100問を越える出題数が普通になってきているわけですね。

また、解答成績の総計からも面白いことが分かります。最新の2017年は解答の総計が635。これは2011年の157の約4倍です。問題数は倍で解答参加者は同じですから、一人あたりの解答数が倍に増えているのです。難易も関係するので簡単には言えませんが、多種多様なルールに対する解答者の対応力が上がっていることを感じさせられる数字です。(他の年度の成績は WFP 作品展鑑賞質(<http://k7ro.sakura.ne.jp/wfp/EnjoyWFP.html>)をご覧ください。)

2011年WFP作品展解答成績

氏名	30回	31回	32回	33回	34回	A34回	B35回	36回	37回	38回	計
たくぼん	4	4	7	7	7	3	4	8	7	7	58
変寝夢			4	4	5		3	5	6	5	32
小峰	2	2	5	5	4				7	6	31
雲海			4	7			1				12
占魚亭									5		5
NAO					5						5
神無太郎			4								4
真T		4									4
隅の老人B							4				4
北村		1									1
もず										1	1
ぼこ										0	0
計	6	11	24	23	21	3	12	13	25	19	157

2017年WFP作品展解答成績

氏名	88回	89回	90回	91回	92回	93回	94回	95回	96回	97回	計
占魚亭	2	12	9	13	7	8	10	10	12	22	105
縫田光司	4	9	9	11	8	11	8	9	9	9	87
たくぼん			5	6		11	10	10		19	71
はなさかしろう			1	8	14	11	13	7	5	6	70
変寝夢	6	5	8	9	4	7	7	5	5	11	67
一乗谷酔象				8	12	11	8	10	9	4	62
井上順一	4	3	3	6	3	8	5	4	4	9	49
青木裕一	5			6	6		9		6	5	47
詰ガエル	2	3	5	7	4	5	5	1	3		35
Pontamon			1	3	7	3	2	1	3	2	22
若林					5	6				1	12
SKK			8								8
計	23	47	65	90	68	81	63	62	51	85	635

これから WFP 作品展がどのように変わっていくのか分かりませんが、皆さんの投稿作と解答が本作品展を支える主役であることは変わりません。今後も引き続き、作品や短評で本作品展を盛り上げていただくようお願いします。

前置きが長くなりましたが、いよいよ今回の出題です。

いつもと違い、今回は各題にルール説明と担当による補足説明を付けました。作品内容に関わるもの以外は、作者のコメントも紹介しています。各題の並びは投稿順ですので、易しそうなものや、自分の好みのもので解図を始めると良いと思います。全 13 題お楽しみください。

◀ 第 100 回 ▶ 解答締切：2018 年 5 月 15 日（火）

■ 100-1 神無太郎氏作

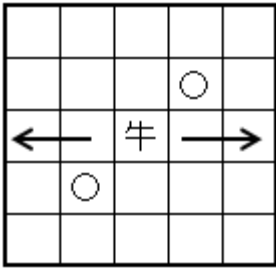
多玉禁欲成禁協力詰 m手

攻方持駒: Bn
受方持駒: B00 E00 F00 G00

ルール説明

- ・協力詰：先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。
- ・禁欲：駒を取らない手を優先して着手を選ぶ。
- ・成禁：詰手順中に駒を成る手があってはいけない。
- ・多玉：複数の玉を使用する。どの玉に対しても王手放置は禁手。
- ・●：●は不透過・不可侵の領域を表す。取ることも通過することもできない。駒というより、マスの性質。
- ・歩 B (B)、歩 E (E)、歩 F (F)、歩 G (G)：B、E、F、G は異種の歩。いずれも「歩」と同じ性能で、同じ筋に二つ以上の同種の駒が存在できず、打歩詰の禁則も適用される。
- ・駒 n：持駒の数を（特定の数ではなく）変数 n で指定する。
これにともなって手数指定も n の関数として表現される。
n が無限大のときにはその駒を無制限に使えることを表す。
- ・横牛（牛）：大局将棋の「横牛」。

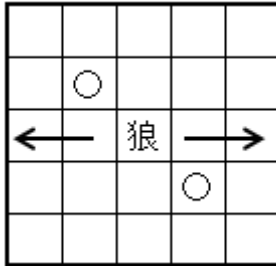
横には自由に走ることができ、斜め右上と斜め左下に一つ動ける。左右非対称の利きが特徴。



(○の地点及び左右へ横牛が動ける。)

- ・横狼 (狼)：大局将棋の「横狼」。

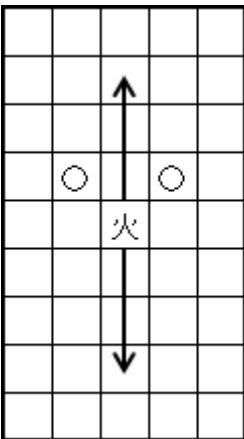
横には自由に走ることができ、斜め左上と斜め右下に一つ動ける。「横牛」とは左右逆の利き。



(○の地点及び左右へ横狼が動ける。)

- ・火将 (火)：大局将棋の「火将」。

前後に三つ、斜め前に一つ動ける。駒を飛び越えることはできない。



(○の地点及び前後へ3つまで火将が動ける。)

[100-1 への補足説明]

神無太郎氏の今回の作品は、第 62 回 WFP 作品展で特別出題された **soga** 氏の作品、及び WFP74 号に掲載された **soga** 氏の「詰将棋コンピュータについての補足」に関する研究をもとに作られたものです。その研究結果は WFP114 号の『「詰将棋コンピュータ」を検証する (I)』で報告されており、元論文の誤記・非限定の指摘、実際に簡単な命令を実行させたときの手数（一つ値を移すだけで約 1 兆手！）等が報告されており、とても興味深いものです。

この作品はその研究の副産物として生まれたもので、**soga** 氏の提唱するプラットフォームに従って、「ある機構」を実現しています。その機構が何かを見抜いてください。

手数は具体的な数値ではなく、「m手」と表されていますが、このmはnの関数になっています。可能であれば一般的なmとnの関係を示す解答が良いのですが、具体的な数で解答されても構いません。その場合、「nが3のとき」及び「nが4のとき」の手順と手数をお答えください。手順は分かる範囲で略記してください。

なお、詰めるべき玉は初形で (50,14) 地点にいます。問題図が見にくい場合、画像ファイルを <http://k7ro.sakura.ne.jp/wfp/wfp100-1.gif> から取得してください。

■ 100-2 占魚亭氏作

協力詰 7手

									皇	
					王					
			飛	歩	歩	駒	■			
					桂					
								飛		

持駒 なし
※■:Imitator

ルール説明

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【Imitator】(■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

【作者のコメント】

力作は他の方々におまかせして、易作で参加します。

【100-2 への補足説明】

作者曰く「易作」とのことですが、本当に易しいかどうかは保証の限りではありません。

27 飛がいかに何かありそうな配置ですが、これが飛である理由を深く考えない方が、早く解けると思います。



■ 100-3 変寝夢氏作

PWC協力詰 13手

										飛
							●			
									●	
						歩	王			皇

攻方持駒 なし
受方持駒 なし
※飛、角、歩は中立駒
●:石 (着手不可、不透過)

ルール説明

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【中立駒】(「皇」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1)中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる (利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2)中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3)中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4)中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5)二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6)中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7)中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

【PWC】

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。(駒位置の交換となる)

(補足)

戻り方等は以下の細則に従う

- 1) 駒の成・生の状態は維持されたまま位置交換される。
- 2) 位置交換の結果、相手駒が二歩になったり、行きどころのない駒になる場合は、通常の駒取りと同じで、盤上に戻らず、自分の持駒になる。
- 3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。

※注

駒取りが駒位置交換になるPWCの規則は中立駒にも適用される。中立駒は定義上「行き所のない駒」にならないので、中立駒の歩は九段目や一段目にあっても良い。

〔作者のコメント〕

一人一局集ということで少し力を入れてみました。

月刊誌で100回突破は、ものすごい事だと思います。その中に参加できている事にとっても嬉しく思います。私にとってWFPのフィールドはとても貴重で大切な場所です。これからも1回でも多く参加していきたいものです。

〔100-3 への補足説明〕

変寝夢氏からはいつも多くの作品を投稿して戴いています。おかげで筆者も本作品展が作品不足に陥る心配をせずに済んでいるので、感謝の念に堪えません。

今回は「少し力を入れてみました」とのこと。もちろん、これは手順が難解という意味ではないでしょう。どこに力を入れたかは解けば自然に分かると思います。

なお、本局は双方持駒なしです。盤上の駒だけで詰めてください。



■ 100-4 青木裕一氏作

最悪詰 47手

										9 8 7 6 5 4 3 2 1
										一
										二
										三
										四
							歩	歩	歩	五
									王	六
							桂			七
歩	歩	歩	歩	歩	歩			飛	桂	八
							角	王	金	九

持駒 歩

ルール説明

【最悪詰】

攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように応じる。

〔100-4 への補足説明〕

青木氏は 98-5 に引き続いて最悪詰の趣向作での登場です。果たしてどんな趣向で、どんな意味付けなのでしょう。

余裕のある方は、受方 38 歩が置いてない理由も考えてみてください。



■ 100-5 小林看空氏作

背面打歩協力自玉詰 10手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
								王	二
									三
						王			四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

※本局の打歩は「完全打歩」

ルール説明

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【背面】

敵駒と背中合わせになったとき、互いに利きが入れ替わる。

【打歩】

打歩詰以外の詰手を禁手とする。これは**先後双方に再帰的に適用される**（完全打歩）。

〔100-5 への補足説明〕

小林看空氏は最近このルールを集中して調べているそうです。詰パラ3月号にもこのルールの作品で登場していますね。

本局での「打歩」は打歩詰以外の詰みを「失敗」とする「単純打歩」ではなく、打歩詰以外の詰みを「禁手」とする「完全打歩」です。

法則問題的な詰上りを視野に入れて解図を行ってください。



■ 100-6 たくぼん氏作

協力自玉詰 100手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	四
銀	銀	銀	銀	香	金	金	金	金	五
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	六
	角				皇				七
		香	桂	と	桂				八
王		桂	王					香	九

持駒 桂

ルール説明

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【作者のコメント】

第100回作品展おめでとうございます。

永年にわたり素晴らしい解説ほんとうにご苦労様です。WFPは七郎さんでもっているといっても過言ではないくらいです。今後ともよろしくお願い致します。

今回第100回ということでOFMのトップページの100番作品の100手を真似て100手の作品をと頑張りました。

自信作とまではいきませんが、何とか間に合って良かったです。

100手に拘らなければ、後手持駒制限つきでもっとすっきりとした初形にすることも可能なのですが、100手にするためにちょっと醜い初形になってしまいました。

手数は長いですが角香桂の細かいやりとりは楽しめると思いますのでたくさんの方のチャレンジをよろしくお願いします。

〔100-6 への補足説明〕

こちらこそ、たくぼんさんの八面六臂の活躍にはいつも頭の下がる思いです。

毎月欠かさずWFPを発行し、解答や創作は

もちろん、各種の作品展や Fairy TopIX など様々なイベントの企画・実行に多大な労力を惜しみなく注ぎ込むことは、他の人ではおいそれと真似できないと思います。

そんな多忙の中、今回は第 100 回に合わせて 100 手詰を投稿してくださいました。

筆者自身は解答を先に見てしまったので、難易度は分からないのですが、閃きだけで解ける種類の作品ではありません。腰を据えて取り組みましょう。



■ 100-7 sogas 氏作

詰将棋 10手 (※受先)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				と	と			銀	五
						王	香	飛	六
							桂	王	七
					銀		香		八
					銀				九

攻方持駒 歩
受方持駒 銀

ルール説明

【詰将棋】

攻方は受方がどのように応じてても詰むように攻め、受方はなるべく詰まないように応じる。(いわゆる普通の詰将棋)

【受先】

受方から指し始める。

〔作者のコメント〕

WFP 作品展第 100 回おめでとうございます。

ということで、自信作とは言えないまでも、自分らしい(?) 素朴な受先詰将棋が出来たので投稿します。

〔100-7 への補足説明〕

sogas 氏は 75-2 でも受先形式の詰将棋を見せてくれました。この作品は対抗系の(協力系でない)ルールでも「手番渡し」が成立するという不思議な作品でしたが、本局も何だか不思議な作品です。

解図自体は易しいかもしれませんが、解けた後で考えさせられる作品だと思います。

■ 100-8 北村太路氏作

ボカスカ協力詰 85手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

			●				●	全	一
	●				●		●		二
全	●	●	●	●	●				三
●	●	●	王	●	●	●	●	●	四
				●	●	銀			五
	●	全					●		六
	●	●	●	●	●	●	●		七
	●				●		●	●	八
		●	●			●		王	九

持駒 なし

※銀、全 (成銀) は中立駒

●:石 (着手不可、不透過)

ルール説明

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【ボカスカ】

盤上にある味方の同じ種類の駒は、すべて同時に同一方向に動かす。

(補足)

- 1) 成駒と生駒は別種とみなす
- 2) 動かさない駒があれば動かせるだけ動かす。
- 3) 成・不成は1枚毎に自由。持駒も同じ種類の駒はすべて同時に打つ。
- 4) 歩だけは例外で打つのも動くのも単独。

【石】(●)

不透過・不可侵の領域を表す。

飛び越すことは可能。

3	2	1	
			一
●	●	●	二
角	桂	香	三

例えば左図で、
12香や11香成は不可。
22角や11角は不可。
11桂成や31桂成は可。

【中立駒】(「全」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きと

なる(利きが非対称な駒の場合に要注意)

- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも白玉への王手は反則。白玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

【100-8への補足説明】

中立駒+ボカスカルールの作品というと同じ北村氏の 84-7 が思い出されます。ボカスカルールは駒が一斉に動く面白さを強調した作品が多いですが、思い通りに動いてくれないもどかしさを強調した構成は新鮮でした。

84-7 は手数が 33 手だったのですが、今回は 85 手。同時にいくつもの駒が動くので、手数以上にたくさんの手を指した感覚になるでしょう。

なお、ボカスカの指し手の表記ですが、駒の種類と方向で表す従来の表記法は、文字数削減に重きを置き過ぎて、判りにくいと思います。ここでは、各駒の動きを () で括って表す方法を推奨します。

例えば、初手に全が縦に真っ直ぐ動くなら、(75全、92全)のように表すのが一例です。

この時 11 全は動けないのですが、敢えてそれも入れて、(11全、75全、92全)と表した方が誤りを防ぐには良いでしょう。



■ 100-9 一乗谷酔象氏作

「時は金なり3」
成禁非王手可天使詰 40547手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

					王	銀	金		一
				歩		歩	歩		二
				香	王	飛	飛	角	三
				香	歩	金	銀	角	四
		桂	桂			桂	銀	金	五
		歩	歩			桂		歩	六
	歩					皇			七
歩	歩	歩	歩	歩	歩	皇	歩	歩	八
皇	皇								九

攻方持駒 歩
受方持駒 歩

ルール説明

【天使詰（最長協力詰）】

先後協力して最長手順で受方玉を詰める。
（補足）

- ・悪魔詰と異なり不詰は避ける
- ・手順中に同一局面があってはならない
（初形を含む）

【成禁】

手順中に成る手があってはならない。
（補足）

- ・あくまで手順中に「成」が出ないだけ。
「詰」や「王手」の概念は通常通り。

【非王手可】

攻方に王手の義務がない（王手をしても良い）

〔作者のコメント〕

WFP作品展の100回達成おめでとうございます。「現時点の最高の自信作をぶつけてください」とのこと、折角の機会ですので長手数で天使詰を投稿いたします。

〔100-9への補足説明〕

「時は金なり」（「氾濫46」⑤）、「時は金なり2」（95-14）、「輪廻の歩」（92-13）に続く天使詰シリーズ最新作。超長手数ですが一連の作品を参考にすれば解けるはず。恐れずに挑戦を！

■ 100-10 尾形充氏作

最善白玉詰 18手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

					王				一
								歩	二
								王	三
				龍		驥		桂	四
						馬			五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀桂

ルール説明

【白玉詰】

攻方は白玉を詰めるよう王手を掛け、受方はそれを妨げるよう応じる。

【最善詰】

攻方は受方がなるべく早く詰むよう王手を掛け、受方はなるべく詰まないよう応じる。
（補足）

- ・いわゆる普通の詰将棋から枝葉（無駄合概念や、駒が余るかどうかで手順に優劣を付ける規則）を取り除き、攻方最短を義務化したもの。攻方最短・受方最長のみが正解で、長手数の余詰は不問。

〔作者のコメント〕

3月号作品展への投稿作を提出させていただきます。

数年間勿体ぶっておりましたが、「現時点で最高の自信作を」と言われたらこのタイミングしかありません。

〔100-10への補足説明〕

尾形氏はお得意の白玉詰での登場です。

「最善」指定が付いているので、攻方最短の順のみお答えください。

しっかりと変化を読み切れば、鮮やかな作意を味わえるはずです。

■ 100-11 上谷直希氏作 (余詰の為欠番)

協力詰 9手 (※透明駒使用)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
				王					二
							科	皇	三
							王		四
							ス		五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 角
 受方持駒 なし
 ※透明駒：攻方 0枚、受方 2枚

ルール説明

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【透明駒】

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→詳細は WFP83 号「透明駒の紹介」を参照。

【作者のコメント】

こだわりなどはあるものの、全体的に軽い仕上がりがかもしれません。

100 回記念の重みに堪えうるものか少し不安もありますが好きな作品ではあります。

〔100-11 への補足説明〕

上谷氏は WFP100 号の記念作品展と同様、透明駒を使った作品での登場です。

この時は透明駒の位置や種類を「手順全体」で推定して良いのか、「それまでの手順」だけで推定すべきかでルール解釈が分かれてしまったのですが、今回は前者、つまり「手順全体」での推定が可能なものとして解図してください。

なお「受方持駒なし」は、見える持駒がないという意味です。透明駒が持駒にある可能性は排除されていません。

■ 100-12 はなさかしろう氏作

協力自玉スタイルメイト 24手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			▲						一
									二
						▲			三
									四
					▽		▽		五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 ▲8歩3
 受方持駒 △12
 ※▲:攻方覆面駒、△:受方覆面駒

ルール説明

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト（王手は掛かっていないが合法手のない状態）にする。

【覆面駒】

種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。駒種が確定すると通常の駒に戻る。

(補足)

- ・透明駒と異なり所属・位置は判明している。
- ・手順表記上「成」は指定できるが、「生」は指定できない。つまり、移動についての情報と、駒が裏返ったという情報は与えることができる。
- ・初形が合法局面であることが仮定される。つまり、駒の枚数が正しいこと、行き所のない駒や二歩がないこと、(受先形式でない場合) 受方玉に王手が掛かっていないことを推論に含められる。また、特に指定のない限り標準駒数であることも推論に利用できるが、ルールから明らかでない限り双玉・単玉両方の可能性がある。

〔作者のコメント〕

いつも楽しく拝読しております。

せっかくの機会ですので、第 100 回 WFP 作品展「一人一作展」に投稿します。

よろしくお願いたします。

〔100-12 への補足説明〕

はなさかしろう氏は WFP114 号の「ちょっと早い 2018 年年賀詰作品展」で本局と同じく覆面駒を使った協力自玉スタイルメイトを発表されています。この時は惜しくも余詰があったので、捲土重来を期しての登場となります。

今回は受方持駒が（覆面駒なので）種類は分かりませんが、12 枚と指定されています。この 12 枚は全部使うとは限りません。ただ、覆面駒の推定のための重要な情報となりそうですね。



■ 100-13 神無七郎作

PWC協力詰 283手

				馬				王	一
							桂		二
								歩	三
									四
							銀	卒	五
						飛			六
							歩	入	七
									八
									九

攻方持駒 なし
 受方持駒 なし
 ※零:(0,0)-leaper王
 36飛は中立駒・成らない

ルール説明

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。


【PWC】

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。（駒位置の交換となる）

（補足）

戻り方等は以下の細則に従う

- 1)駒の成・生の状態は維持されたまま位置交換される。
- 2)位置交換の結果、相手駒が二歩になったり、行きどころのない駒になる場合は、通常の駒取りと同じで、盤上に戻らず、自分の持駒になる。
- 3)駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。

【中立駒】（「」あるいは「n駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。

（補足）

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる（利きが非対称な駒の場合に要注意）
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる。ただし、本局の中立駒の飛は成らない。

- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。
- 8) **中立駒の駒取りに関する規則はPWCの駒交換に関しても適用される(手番側の駒に対する位置交換はできない)。**

【Zero】(零)

(0,0)-leaper。現在位置に移動する。
行き所のない駒にはならない。

本局では受方玉が零の性能になっている。

【100-13 への補足説明】

本局は担当の自作です。前々からPWCで作りたいと思っていた機構を、中立駒を使うことで実現できました。

100-3 でもPWCと中立駒の組み合わせがありました。念のため補足をおきましょう。PWCでの駒取りは駒位置交換になってしまい、実際は駒を取れないのですが、中立駒の駒取りに関する規定はそのまま適用されるものとします。つまり相手番の駒に対する位置交換はできますが、現手番の駒に対する位置交換はできません。逆に中立駒が位置交換される場合は、どちらの手番からでも可能です。

なお、零王(不動玉)や、「成らない飛」の使用は構図を簡素にするためのものです。ルール設定が増えて面倒に見えますが、紛れは減るので解図はむしろ楽になるでしょう。

収束が少し難しいかもしれませんが、多くの解答をお待ちしています。

以上

解答要項

第 99 回分解答締切:2018 年 4 月 15 日(日)

第 100 回分解答締切:2018 年 5 月 15 日(火)

宛先: k7ro.ts@gmail.com (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載します。)宛先は解答と同じ k7ro.ts@gmail.com へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

「第 48 回神無一族の氾濫」投稿作品募集

「第 48 回神無一族の氾濫」の出題作を募ります。今回のお題は「古典詰将棋」です。

江戸時代の詰将棋と同じテーマをフェアリ一流に表現した作品をお寄せください。

テーマは何でも構いません。

例えば「図巧 46 番と同様、桂が成って元の位置に戻るのがテーマです」というように、比較元となる古典作品と、共通するテーマを明記してご投稿ください。

また、1 題通常の協力詰(ばか詰)を募集します。今回のお題に該当する作品であれば、優先して採用します。

作品要件	古典詰将棋と共通するテーマを持つ作品
募集締切	2018 年 4 月 15 日(日)
募集作品数	4 + 1 (ばか詰枠)
送り先	神無七郎 (k7ro.ts@gmail.com) 上記宛先へ E-mail でお送りください。
備考	1 人何作でも投稿可 採否は 4 月 22 日までに通知します

やさしい(?) Imitator PART2【出題編】

占魚亭

今年も「やさしい(?) Imitator」を開催します。
 前回(『WFP』第 108 号)よりもやさしいはず。
 解けた分だけで構いませんので、解答をお寄せ下さい(ソフトに解かせる、コメントのみも可)。

締切: 2018 年 4 月 15 日(日)
 宛先: 占魚亭 sengyotei@gmail.com まで

—ルール—

【協力詰】 双方協力して最短手数で受方玉を詰める。透かし詰は詰みと認められない。

【Imitator(■または I)】 着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

—今回の問題—

1. 協力詰 3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
					飛				二
							王		三
				飛					四
					■				五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
 受方持駒 なし

※ウォーミングアップ問題。双方持駒なし。

2. 協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							銀		一
							王		二
					■				三
						爵		馬	四
							笛		五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

※銀からか、馬からか(その1)
 壁駒を打つ応手はありません。

3. 協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							銀		一
							王		二
					■	爵			三
						爵		馬	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

※銀からか、馬からか(その2)
 こちらも壁駒を打つ応手はありません。

第98回WFP作品展結果 担当：神無七郎

第98回WFP作品展の結果を報告します。
 今回の出題は全7題。解答者数は8名。全題正解者2名。解答の内訳は以下の通りです。

〔第98回WFP作品展成績〕（敬称略）

○：正解 ×：誤解 -：無解

解答者名	1	2	3	4	5	6	7	計
占魚亭	○	○	○	○	○	○	○	7
たくぼん	○	○	○	○	○	○	○	7
縫田光司	-	○	○	○	○	○	○	6
青木裕一	-	-	○	○	○	○	○	5
変寝夢	-	-	○	○	×	○	-	3
詰ガエル	-	-	○	-	○	-	-	2
井上順一	-	-	○	-	-	-	○	2
はなさかしろう	-	-	○	○	-	-	-	2

出題数こそ少ないものの、解答者にとってはやはり Imitator を使った 98-1 が大きな壁でした。作者以外でその壁を打ち砕いて全題正解を達成したのは、たくぼんさん。剛腕健在ですね。

逆に解答者全員正解のオアシスとなったのが 98-3。毎月1題はこういった作品が欲しいところです。

■ 98-1 占魚亭氏作（正解2名）※実質1名

協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
					王			
					■		王	

持駒 角

※■：Imitator

【ルール】

• 協力自玉詰

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

• Imitator（■またはI）

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

【解答】

37 角 47 玉[I49] 38 王[I59] 57 玉[I69]
 48 王[I79] 88 飛 まで 6手

（詰上り）

9	8	7	6	5	4	3	2	1
					王		角	
							王	

持駒 なし

【作者のコメント】

双方の玉が動きますが、あまり難しくないと思います。

【解説】

玉での王手が2回も登場する作品。

通常、玉で直接王手することはできません。玉の利きは左右上下とも対称なため、自分から相手の利きに入る反則になるからです。ところが Imitator を使うと、一方の玉だけが相手の玉に利いている状態を作り出せます。

本局では2手目に Imitator が九段目に来るため、八段目の玉で七段目の玉に王手を掛けても、七段目の玉は八段目の玉に王手を掛けられません。Imitator を盤端に押し付けた状態を効果的に利用することで、3手目に玉による王手が可能になったわけです。

ただし、4手目すぐに 68 飛では 27 王の応手が残るので詰みません。一度横に寄り、初手で設置した 37 角を退路封鎖に利用します。最終手 88 飛はその王手を防ぐ逆王手。盤端に押し付けられた Imitator のせいで、攻方玉は九段目に下がられません。37 は味方の角で、47 は相手

の玉で、57は Imitator の行き先が埋まっているため行けません。攻方には持駒もないので、これで詰みとなります。

本局は Imitator を盤端に寄せ、駒の動きを制限する手筋を最大限に利用しています。自玉が動くため詰上りは想定しにくいですが、合駒よりも Imitator の利用を優先して読めば、少し解き易くなると思います。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

合駒なしは却って解きにくいかも。最下段に imitator は覚えていると役に立つかも。

たくぼんさん

最後まで残ったのが本作。
形から 79 角を散々読みました。
37 角から王寄りには仰天でした。

☆作者以外の正解者はたくぼんさんのみ。

Imitator を使った作品の解図には、ちょっとやそっとでは諦めない根性が必要なのかもしれません。

■ 98-2 占魚亭氏作（正解 3 名）

協力自玉詰 8 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
						王			三
									四
				馬				王	五
									六
									七
									八
									九

持駒 響
※響：Friend

【ルール】

• Friend（響）

フェアリーチェスの Friend。
本来は利きを持たないが、味方の駒の利きに入ると、その駒の利きを持つ。

（補足）

・複数の味方駒から利かされると、それらを

合成した利きになる。

- 味方の Friend から利きを写すこともできる。利きの転写は再帰的で、利きが増えた結果、更に多くの Friend を巻き込み、相互に利きを増幅させることも可能。

【解答】

23 馬 44 玉 22 馬 35 玉 44 響 33 飛
13 馬 同飛 まで 8 手

（詰上り）

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
								響	三
					響				四
						王		王	五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

例によって飛車です。

【解説】

Friend（響）を使って“合駒”を間接的に発生させる作品。

この作品の持駒を響から歩に置き換えてみましょう。すると以下の手順で詰みます。

23 馬 44 玉 22 馬 33 飛 45 歩 35 玉
13 馬 同飛 まで 8 手

これを作意と比べてみましょう。

23 馬 44 玉 22 馬 35 玉 44 響 33 飛
13 馬 同飛 まで 8 手

両者を比較すると 33 飛の登場するタイミングが変わっていることが分かると思います。

響それ自体は利きを持たないので、先に飛合をしてしまうと響では王手ができません。でも、あらかじめ馬と響の連携を作っておけば、両者の連携を断つ飛打が合駒の代わりにになります。

いわば「時間差合駒」ですね。

正確に言うと本局の6手目は「合駒」ではないのですが、他の駒の影響を遮断する駒打ちで、合駒と同じ効果を得ており、マドラシ系の性能変化ルールと似た味わいがあります。

手順としては持駒が歩の場合と大差がないので、響の大活躍を期待された方は物足りなく感じたかもしれません。でも、本局は性能変化系ルールにおける「合駒ではない駒打の応手」を分かりやすく表現しており、様々な応用を考えられる作品だと思います。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

選題時のヒントからこの手の形かと思ったのに、どうしても初手への抵抗感が拭えなかった。次はフレンド同士の連鎖を期待します。

縫田光司さん

王手している響への利きを遮る応手を思い付いてからも、初手や3手目に響を打つ筋ばかり考えて苦戦しました。

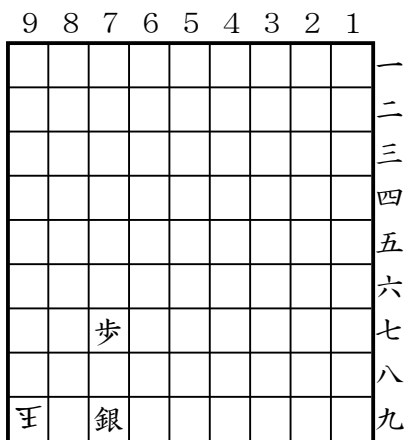
たくぼんさん

詰上り13飛/35玉は予想通りですが飛の出し方に工夫ありでした。

☆出題時のヒントがあっても、すぐ響を使う紛れは捨て難かったようですね。

■ 98-3 変寝夢氏作（正解8名）

レトロ協力詰 -2+1手



持駒 なし

【ルール】

- 協力詰

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

• レトロ -m+n 手

m 手逆算して n 手で詰む手順を求める。

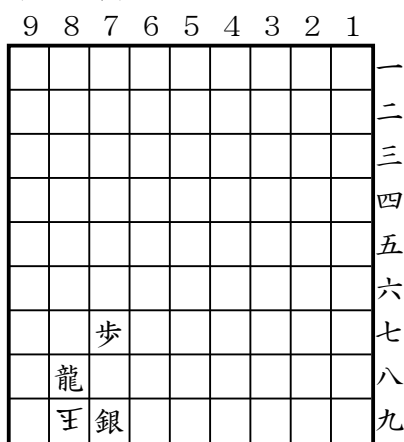
(補足)

- 3) 特に注積のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 4) 協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数の逆算や短い手数の詰手順が成立する場合、それが優先される。

【解答】

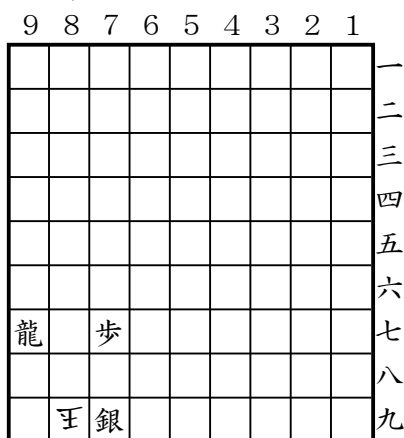
89玉(+99龍) 97龍 / 88龍 まで -2+1手

(詰上り)



持駒 なし

(逆算図)



持駒 なし

(出題図への手順) 99龍 同玉 まで 2手
(詰手順) 88龍 まで 1手

【作者のコメント】

考えるところはないですが。

【解説】

レトロの基本である「移動元への駒の追加」の登場する作品です。追加する駒は強力な龍。これも基本中の基本ですね。レトロでは成駒も発生させられることを忘れてはいけません。

作意はこの龍を 97 に戻し、88 龍で詰め上げます。大きな利きを持つ駒を比較的小さく使う手順が面白いですね。

強力な駒を発生させる簡素図で心配なのが非限定や余詰（余逆算）ですが、本局は龍の行き先が意外と限られており、馬を発生させる逆算も 77 歩一枚で防げています。

効率良く作意が実現された構図は、どんなルールであれ気持ちのいいものですね。

【短評】

占魚亭さん

77 歩で馬の可能性を消しているわけですね。

青木裕一さん

77 歩があるため、馬は成立しない。

縫田光司さん

77 歩をなくして馬で詰ませる筋との 2 解にしようとするとは非限定が多すぎて収集がつかなくなる一方で、龍だときれいに限定できるのですね。

はなさかしろうさん

ずっと手が伸び、癒されました。まずやってみよう、という気持ちをいつもサポートしていただいています。

井上順一さん

これは詰上りが想定できる。

たくぼんさん

オアシスのような 1 作。こういうのは必要ですね。

☆解答者全員正解！

本作品展でレトロが「癒やし枠」に入る日が来ようとは、想像できませんでした。



■ 98-4 変寝夢氏作（正解 6 名）

リパブリカン協力白玉詰 4 手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
				王					五
									六
									七
									八
			雀						九

持駒 飛

【ルール】

・リパブリカン

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。
(補足)

- 4) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 5) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
- 6) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。白玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。

【解答】

59 飛 65 玉 69 飛 57 飛(+67 王) まで 4 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
			王						五
									六
			王	飛					七
									八
		金	飛						九

持駒 なし

【作者のコメント】

突飛な手順ではないですが、突然飛が出てきます。

【解説】

「自玉を合駒代わりに使う」という、リパブリカンを代表する手筋による詰上り。

通常の合駒と自玉を合駒代わりにする手の両方を読む必要がある上、受方の最終手が王手と無関係に選べるため、詰上りを想定しにくい作品だったと思います。

本局はこの最終手を素材として冒頭2手に伏線的な手を入れています。

初手は馬の利きを遮らないための飛の遠打。

2手目は攻方玉の出現位置を確保するための65玉。

初手は割と予想しやすいですが、2手目は66玉としたい形なので、奥ゆかしく一歩だけ下がるこの手は効果的だと思います。

小品ながら押さえるべきツボはしっかり押さえた作品です。

【短評】

占魚亭さん

最後まで残りました。

こんな単純な形に気付かないとは……。

青木裕一さん

玉が上がったほうが詰みそうに見えました。

縫田光司さん

2手目は玉を近付けるものとばかり考えていたので、65玉に気付くまでが大変でした。

はなさかしろうさん

生成する自玉を合駒にしそうな雰囲気がありますね。

ほど良い距離を保つ65玉が好いです。

たくぼんさん

ちょっと浮かび難い詰上りと思います。

☆自玉が動く自玉詰は詰型の想定が困難ですが、リパブリカンでは自玉がないですからね。

4手詰くらいがちょうど良いのかも。



■ 98-5 青木裕一氏作 (正解5名)

最悪詰 29手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
					飛				三
			飛						四
									五
			金		科				六
			馬	王			王		七
			飛		飛				八
	金		角						九

持駒 香

【ルール】

•最悪詰

攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように応じる。

【解答】

49香 48香 同香 37玉 44香 47玉

49香 48香 同香 37玉 45香 47玉

49香 48香 同香 37玉 46香 47玉

49香 48飛 同香 37玉 57飛 同馬

47香 48飛 同角 同馬 27飛 まで 29手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
					香				三
				香	香				四
				香					五
				香	王	飛	王		六
			香	香	王	飛	王		七
			香	香	王	飛	王		八
金									九

持駒 なし

〔主な変化〕

- ・初手 49 香のところ 48 香は 57 玉、68 角、58 玉、59 歩、69 玉、79 金迄。
- ・5 手目 44 香のところ 43 香は 47 玉、49 香 (48 歩は 37 玉、47 歩、同玉以下)、48 歩合、同香、56 玉以下、歩を消費して初手の変化に還元。

〔主な紛れ〕

- ・4 手目 37 玉のところ 5 筋に逃げるのは持駒を消費して玉を 57 に動かさないで逃れ。(54 歩はこの順の早詰消し)
- ・24 手目同馬のところ 47 合は同香、48 合、同角で逃れ。

【作者のコメント】

普通詰将棋でたまに見る香積み上げの最悪詰版です。

普通詰将棋でのこの趣向の意味付けは香の品切れが多いですが、本作では開王手で 47 香とするのをできるだけ遅らせるためです。

【解説】

大掛かりな仕掛けで、いかにも何か出てきそうな作品。まずは手筋とばかり初手 48 香としてみましょう。すると、57 玉と逃げられて、68 角以下あっさりと詰に誘導されてしまいます。初手 49 香ならば 57 玉には 48 角があるので、受方は合駒するしかありません。

最悪詰の合駒は安い駒と相場は決まっているので、2 手目香合は妥当なところ。桂合をするなら 36 桂を移動合するしかありませんが、それでは 36 地点が空いて、一層詰みにくくな

ります。ここまで読むと、本局の狙いがおぼろげに見えてくると思います。即ち「香打香合」の繰り返しです。

以下、開き王手で香を移動し、「香打香合」を繰り返すと、最後は香が品切れになります。熟練した解答者なら、そこで合駒が変わって収束する、という筋書きが予想できるでしょう。最後の合駒は金や銀だとそれを 28 に打って不詰になるので、飛合になります。

これを取った後、23 手目いきなり 47 香とすると、更に 48 飛合とされて早く詰むので、攻方は一旦 57 飛の捨駒で手数を稼いでから 47 香とします。受方はこれにも飛合で応じ、攻方は 27 飛とせざるを得なくなって詰め上がります。

以上、手数もピッタリ。何の問題もなく解けたように見えますが、実は重大な謎が残っています。

「香打香合」から「香の移動」の繰り返しは、受方の香の品切れを狙っているように見えます。でも思い出してください。本局のルールは「最悪詰」です。攻方は不詰に誘導したいので、受方の合駒の品切れを狙っても意味がありません。では、今まで繰り返してきた手順には何の意味があるのでしょうか？

その意味は 5 手目 44 香のところで、45 香や 46 香等の変化を敢えて指すことで判明します。その後作意同様「香打香合」から「香の移動」を繰り返すと、47 香の開き王手をしたところで、まだ香が残っていたとしても、受方は 48 飛合をして収束に短絡させることができます。一方、47 が埋まると飛を 27 から打たざるを得ません。つまり、この繰り返し手順の意味は「品切れ狙い」ではなく、47 香を先延ばしにする「手数稼ぎ」だったのです。困った時に問題を先送りするのは、日常生活から政治の世界まで幅広く使われる「手筋」ですが、最悪詰でもそれはよく使われるのです。

他のルールで同種の趣向を見慣れていると、習慣でその手順を選んでしまうことがあります。本局の場合は意味付けを勘違いしたままでも正解できる親切な作品だったのですが、意地の悪い作者ならそれを使った罫を用意するでしょう。見慣れた手順がいかにも正解に見えて実は違う……そんな作品が今後登場しないとは限らないので、皆さんくれぐれもご用心を。

【短評】

変寝夢さん（※誤解）

作意はすぐにわかったが、48香と近づけて打つ手に対する変化がなかなかわからなかった（特に68角が）。
変化紛れの手作り感が印象的。

☆変寝夢さんは20手目から「48桂成、同香、36玉、28桂、37玉、47香、48飛、同角、同馬、27飛」の解答でした。最悪詰の攻方は不詰になるように指すので、この手順の最終手を36飛として不詰となります。

占魚亭さん

4筋の柱が壮観。感動の手順。

縫田光司さん

攻方ではなく受方の43歩を置くことで香を44で止めさせる機構がよくできているなあと思いました。

ただ、ヒントにある「思わぬ破調」が何なのかよくわからないので、どこか落とし穴にはまっているのでしょうか…？

☆57飛の手数稼ぎが破調っぽく見えたので、こんなヒントを出したのですが、駒余りなのですぐ変だと気づきますよね。
却って惑わせたようで申し訳ありません。

たくぼんさん

最悪詰の趣向も特徴があって面白いですね。香の渋滞の意味づけもなるほどです。



■ 98-6 尾形充氏作（正解5名）

安南詰 17手

										一
										二
				馬						三
				科		銀				四
				金						五
				王	歩	香				六
			龍							七
										八
										九

持駒 なし
※無駄合概念あり

【ルール】

•安南

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

【解答】

55金 46玉 56金 同玉 45銀 46玉
64馬 45玉 37龍 44玉 45香 同玉
55馬 同玉 57龍 まで 15手

(詰上り)

										一
										二
										三
				科						四
				王						五
										六
				龍						七
										八
										九

持駒 なし

〔主な変化〕

- ・4手目同玉のところ36玉は54馬、35玉、45馬、24玉、27龍以下。
- ・6手目46玉のところ同玉は37龍、55玉、56香まで。

〔主な紛れ〕

・9手目 47 龍は 46 金以下不詰

【作者のコメント】

七色都煙。新年号らしく。

【解説】

安南で桂になった玉を龍で詰めるすかし詰。玉を桂に変身させて詰めやすくするのは安南詰では頻出の筋ですが、本局ではこれを実戦形ではなく都詰にして、空中捕捉の味わいを加えています。

手順は桂の上に玉を載せようとする攻方と、それを避けようとする受方のせめぎ合いを軸に展開します。

初手 55 金は正にそれを狙った手。桂の上に玉が載るのを避けるため、受方は 46 玉としますが、これで攻方は 46 歩の消去に成功します。

46 歩が消えてくると、5手目 45 銀が王手になります。これも玉を五段目に誘導する狙い。同玉なら 36 龍、55 玉と進み、やはり桂の上に玉が載ってしまいます。

45 銀に対し受方はやむなく 46 玉としますが、馬と龍で網を絞られ、最後は強制的に桂の上に玉が載る形に誘導されます。

最後は龍の王手で鮮やかな単騎詰。本局は無駄合概念を適用するルールなので、これで詰上りとなります。

七色図式、都詰、煙詰、単騎詰等、様々な条件に該当する本局ですが、そのような能書きを意識しなくても、一貫した狙いと、それを実現する手順の流れだけで十分に楽しめる作品だと思います。

なお、本局のような最終形を詰上りとみなすかどうかは、過去にも議論になったことがあります。本作品展では他のフェアリールールと同様「無駄合概念なし」を基本とし、「無駄合概念あり」の場合、その旨を明記することにしていきます。

また、せっかくの機会ですので、この詰上りの変種をいくつか紹介したいと思います。

まず思い付くのは龍の代わりに飛で詰ます形ですが、これはありふれているので除外しましょう。

やや珍しいのは、玉と龍の距離を1マスではなく、2マス離れた作品です。

【参考図1】距離が少し離れているもの

大野孝作
安南詰 9手

							馬	龍		一
							科		將	二
								桂	と	三
								王		四
										五
							龍	角		六
										七
										八
										九

持駒 なし
(詰将棋パラダイス,1996年3月)
35 角 13 玉 16 龍 22 玉 44 角 23 玉
33 角成 同玉 36 龍 まで 9手

直接龍で王手するのではなく、龍に変身させた別の駒で詰める例もあります。

【参考図2】龍に変身した駒で詰ますもの

加賀孝志作
安南詰 7手

							龍	科		一
									王	二
										三
							龍			四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 桂
(詰将棋パラダイス,1999年10月)
24 桂 13 玉 25 龍 12 玉 14 龍 22 玉
25 龍 まで 7手

定番の詰上りも一工夫を加えたり、そこに至る過程を充実させることで、新作として鑑賞に値する作品になります。未踏の分野を開拓する

ことだけが創造性ではありません。時には敢えて定番に挑むのも、創造性の一つです。

【短評】

変寝夢さん

どこでひっかかったのやら。
変化は全部詰んでいると思うんだけどなあ。
得意の読み抜けかも。

☆悩ませてしまって申し訳ありません。変寝夢さんの解答で初めて手数誤記に気付きました。おかげさまで手数誤記を告知できたので、とても感謝しています。

占魚亭さん

綺麗な捌きで素敵な作品。好みです。

青木裕一さん

駒をさばいて安南らしい単騎詰。

縫田光司さん

駒さばきの心地よさを堪能していたため、七色図式であることにしばらく気付きませんでした。

たくぼんさん

安南らしい詰上り。これは見事でした。

■ 98-7 神無七郎作 (正解 5 名)

協力詰 39手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
							王		二
				歩	歩	歩			三
			ス	角	王				四
			歩	歩				歩	五
			龍		桂	龍			六
				桂	桂	ス			七
				桂					八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし
※27飛は中立駒

【ルール】

- 中立駒 (「龍」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。
取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 8) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる (利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 9) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 10) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 11) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 12) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 13) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 14) 中立駒でも 白玉への王手は反則。白玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

【解答】

25n 飛 26n 飛 36n 飛 46n 飛 36n 飛 26n 飛
25n 飛 27n 飛成 36n 龍 47n 龍 46n 龍 48n 龍
46n 龍 49n 龍 46n 龍 47n 龍 36n 龍 27n 龍
25n 龍 14n 龍 15n 龍 25 桂 同 n 龍 14n 龍
15n 龍 25 桂 47 桂 同飛成 25n 龍 14n 龍
15n 龍 25 桂 同 n 龍 27n 龍 36n 龍 同龍
27 桂 同龍 47 桂 まで 39 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
							王		二
					歩	歩	歩		三
				ス	角	王			四
				歩				歩	五
				龍				歩	六
					桂	桂	龍		七
					桂	ス			八
									九

持駒 なし

【解説】

本局は中立駒の飛にひたすら頑張って貰う

作品です。

中立飛の最初の仕事は 46 歩消去。受方の手番なら攻方の駒を中立駒で取ることができます。

これが終わると 2 筋に戻って中立龍に変身。4 筋に移って今度は桂二枚を消します。これは消去が目的ではなく、受方の駒台に桂を移すのが目的です。後でこの桂を合駒で入手することができるので、結果的にこれは持駒になります。つまり置き駒を持駒にするために、一旦相手の駒台を経由したわけですね。

最後は桂で詰めたいので、稼いだ桂で守備駒の飛を邪魔にならない所に誘導し、47 桂で詰め上げます。

中立駒を使う時、特に注意すべきは王手放置の反則です。例えば 28 手目 25 桂の代わりに 25 歩としてしまうと、「同 n 龍」とした手が自玉への王手となります。また、何度か出てくる「14n 龍」は逆王手なので、すぐに動かさないと反則になります。そのため 25 手目に 47 桂を打つことはできません。中立駒の逆王手を使って非限定を消しているわけです。

本局は中立飛に一杯働いて貰う作品ですが、第 100 回には、中立飛にもっと働いて貰う作品を出す予定です。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

1 4 手目まではノータイムもその後の展開が分からなかった。そうか、1 4 n 龍は反則手ではないんだよなあ。

占魚亭さん

楽しい n 飛 (n 竜) 繰り。
後半の桂の渡し合いがアクセント。

青木裕一さん

詰手順の中にストーリーがあって楽しめました。

縫田光司さん

23 王と 24 歩の配置のおかげで駒の移動位置やタイミングが上手いこと限定されているのですね。

井上順一さん

桂を取らせ、合駒させて入手するというストーリーが明快。先手玉の配置で 47 桂のタイ

ミングがうまく限定されている。

たくぼんさん

14n 龍が反則手と勘違いして行き詰まりましたが、合法手と気付いて何とか解けました。手触りがいいのは本当に気持ちよく解けますね。

☆14n 龍が反則に見えて指しづらいという声が多かったのは意外でした。でも、これで準備ができたので、第 100 回向けの作を安心して出題できそうです。

【総評】

変寝夢さん

対抗系の変化読みは疲れるが、読み切れたときは爽快な気分になれます。

たくぼんさん

市村氏に続いて今川さんの訃報とは残念でたまりません。ご冥福をお祈りいたします。

☆このところ訃報が続いて私もとても寂しく思っています。市村氏もそうですが、今川氏も難問に果敢に挑むタイプで、「これはちょっと解答が集まらないかも」と危惧するような難問にも解答を寄せてくださいました。

ここ数年は氏から WFP 作品展への解答がありませんでした。これはこの作品展が百鬼夜行路線になってきたせいかと思いましたが、今にして思えば、健康上の理由で解図の対象を絞らざるを得なくなっていたのかもしれない。

今川氏のご自分の解答スタイルを「闇雲流」と表現していました。少し謙遜の入った表現だとは思いますが、これは詰将棋を解く時の正しいやり方だと思います。天啓のような閃きで解ければ、それに越したことはありませんが、そんな閃きがいつも都合良く訪れるわけではありません。たとえ閃かなくとも、正解を手繰り寄せる「闇雲流」。これこそが、今川氏から私達が受け継ぐべき大切な遺産だと思います。

以上

Fairy of the Forest#54結果発表

- 2017年12月20日：課題発表：(協力詰)
「自由課題」
- 2018年02月15日：投稿締切
- 2018年02月20日：出題
- 2018年03月15日：解答締切
- 2018年03月20日：結果発表

- 結果発表

【今回の解答者】(敬称略、到着順)
(○は全題正解者)

- 神無七郎、○占魚亭、青木裕一、縫田光司
- たくぼん

■ 54-01 上谷直希 協力詰5手(2解)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				皇					三
									四
									五
				兵					六
				王					七
					香	龍	龍		八
					角	角			九

持駒 なし

a)27 龍左 37 香 47 香 39 香成 58 龍 まで5手

(詰上り図 a)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				皇					三
									四
									五
				兵					六
				王	香		龍		七
				龍					八
					角	皇			九

持駒 なし

b)17 龍 27 桂 47 香 39 桂成 58 龍 まで5手

(詰上り図 b)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				皇					三
									四
									五
				兵					六
				王	香			龍	七
				龍					八
					角	手			九

持駒 なし

作者—それぞれの解でそれぞれの龍のソッポを表現してみました。最終手の「違う龍だけど同じ着手表記にまとまっている」感がちょっと面白い? 飛び道具5枚の攻撃陣かつ端に近い構図のわりには少ない駒数かなと思います。53の余詰防ぎは嫌味かもしれませんが、この配置のおかげで他の嫌味な駒をごっそり省けたのでまあいいかなと。4筋の2枚の駒は紛れ増加のためにわざと強い駒にしたのではなく、利きが弱い駒にしたほうが余詰んでしまうのです。ばか詰特有の配置といえるでしょうか。

☆53 香は、「47 龍~67 龍~58 龍迄」、「46 香~36 龍~56 龍迄」、「46 香~35 龍~58 龍迄」などといった種々の余詰を一掃しています。

縫田光司—綺麗な対比の2解ですね。最初は48 香の開き場所で対比させるのかと思ったので苦戦しました。

☆47 香の限定移動は共通しています。

たくぼん—2手目角でも出来ないかと思ったら2枚出てましたね。初手の動かす龍が異なるのが面白いですね。

☆初手の龍が異なるので、最終手は表記上は同じでも異なる龍による王手となっています。作者のおっしゃる通り。

占魚亭—初手の違いで合駒が変化。素晴らしい

2解もの。

☆合駒は47香の開き王手に対し39角を取るのが目的ですが、それが龍の位置によって変化するのが巧いですね。つまり、b)でa)と同じように37香合とすると、38龍が邪魔して39角を取れません。そこで、27桂合となるわけです。

七郎一利き筋を二重に止めるための龍のソッポ行き。利き筋を二重に止める筋自体はたまに見掛けるもので、Onsite Fairy Mateでも第26回と第27回に出題されています。

(参考：<http://k7ro.sakura.ne.jp/solve/solution06.html#第26回>、

及び、<http://k7ro.sakura.ne.jp/solve/solution06.html#第27回>)

今回はそれを「ソッポ行き」に絡めたのが工夫ですね。

☆受方の合駒と攻方47香によって龍の利き筋を二重に止める構成になっていますね。参考図については指定のサイトをご覧ください。

青木裕一—2017年11月のフェアリーランド②の姉妹作ですか？

☆図面だけ紹介しておきます。

(参考図：協力詰5手)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

☆本作を横版とすれば、この図は縦版ですね。両王手のエンディングも工夫でしょうか。

■ 54-02 青木裕一 協力詰7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角香

47角 同玉 49香 48角 同香 56玉
45角 まで7手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

作者一角を一旦渡して合駒でもらう狙いです。

占魚亭—さらっと角を回収。流石の上手さ。

☆初手角打や香打から追い回してみても、7手では届きません。そこでいわゆる「回収手筋」が登場します。

七郎一持駒にするため持駒を捨てる。主題が明確で良い作品です。自分の持駒を相手の駒台に「預金」しておいて必要な時に引き出す作品は協力詰に限らず他のルールでも、もっと見てみたいです。

☆49香に角合してもらいたいのですが、角は攻方の持駒と盤面の受駒しかなく、現状では無理です。しかし、自分の駒台の角を相手に渡すことはできます。それが47角の捨駒です。そうしてから49香と打てば48角合が成立し、再び持駒として回収できるわけです。最後は取った角を45に打って詰みます。

たくぼんー協力詰で単純な捨駒は意外と少なく、意味づけも角合を作る為でありながら簡素な初形で言うことなし。

☆金の向きは違いますが、左右対称形ですね。

縫田光司ー素直な手順でした。57が桂なのはどんな意味があるのでしょうか？

☆59香、69(67)玉に離し角で、金(飛)合を取って、69金(飛)までの余詰を防止しています。

■ 54-03 たくぼん 協力詰 23手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
						ス	ス	ス	五
						ス	王		六
						ス	ス	王	七
						ス			八
									九

持駒 桂4歩5

18歩 同と 29桂 同と 18歩 16玉
 28桂 同香成 17歩 同玉 18歩 同玉
 19歩 27玉 39桂 26玉 18桂 同杏
 27歩 17玉 18歩 16玉 17香 まで23手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
						ス	ス	ス	五
						ス		王	六
						ス	歩	香	七
						ス		歩	八
						桂	ス		九

持駒 なし

作者ートリとは恐れ多いですが、すらすらと解けるとおもいます。

占魚亭ー方針がはっきりしていて易しく、中編入門にぴったりの作品だと思ひます。

☆でも、そこまで簡単ではなかったようで……

七郎ー2手目「同と」はあり得ない(これが作意ならもっと逆算するはず)と思ひ込んだため、かなり苦戦しました。25手で詰む紛れも多いですし、心理的な解きにくさがあると思ひます。

☆上部(玉にとっては下段)に追い出して、駒余り25手という順は、確かにたくさんありますね。もちろん実際は読みの範疇外となるでしょうが……。

2手目「同と」は26香の利き筋を通し、後の香成を企図しています。ただ、18とのままだと1筋に歩が打てなくなるので、29桂、同とで移動させておきます。

七郎ー手順の肝は8手目の同香「成」でしょうか。普通詰将棋でもそうですが、何度か動かした後に取ると、駒取りの俗手も嫌味に感じませんね。

☆28桂に同香成として、この成香を入手するのが攻方の方針となります。いったん19歩と39桂を据えた後、16手目26玉に18桂がその方針に沿った手で、同成香とさせて19歩でその成香を手に入れば、17香迄の詰上りが待つて

います。桂歩の使い方が印象的な佳局でした。

【総評】

七郎ー今回は3題しかないので楽勝と思っていたら、たくぼん氏の作品で大慌て。冷や汗をかきました。余裕を持って解図に着手して良かった…。

☆七郎さんでも苦戦することはあるんですね。油断禁物ということでしょうか。

占魚亭ーノーマル協力詰創作が苦手なので、とても勉強になりました。これを活かせるかどうか自信ありませんが……。

☆ご投稿をお待ちしています。

たくぼんーこれで解答者が増えなかったらと思うとちょっとドキドキしますね。

☆うーん、増えませんでしたね……。さて、どうしましょう？

Fairy of the Forest#55課題発表

- 2018年03月20日：課題発表：(協力詰)
「自由課題」
- 2018年05月15日：投稿締切
- 2018年05月20日：出題
- 2018年06月15日：解答締切
- 2018年06月20日：結果発表

■ 課題発表

もう「課題なし」が定番になってしまいました。何らか設定したい気持ちもあるのですが、ここまで投稿が少なくは、なかなか踏み切れません。また、どこかで日程を調整しないといけません。今回の投稿期限も従来通りとしておきます。

多くのご投稿をお待ちしております。手数は問いません。面白さ優先でお願いします。

(投稿先)

→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

Fairy TopIX2017投票要項

Fairy TopIXとはウェブサイトで開催されたフェアリー詰将棋・推理将棋・プルフゲームを対象にお気に入り投票を行い、上位作に授賞するものです。Fairy TopIX2017は2017年にウェブサイトで開催された作品の中からお気に入り投票によって選ばれます。

【投票宛先】

WFP事務局(たくぼん)宛にメールにてお願いします。takuji@dokidoki.ne.jp

【スケジュール】

投票開始：2018年4月5日

投票締切：2018年5月10日

結果発表：WFP平成30年5月号(119号)

【対象】

2017年にWeb Fairy Paradise誌に掲載された作品(過去作の紹介作は除く)。なお詳しくは後日発行予定の対象作品一覧で確認下さい。またWFP作品展につきましては神無七郎氏のサイト(OFM)でも全作品動く盤面で鑑賞いただけますのでそちらを参照下さい。

【部門区分】

【フェアリー詰将棋】

短編部門：～15手

中編部門：16～49手

長編部門：50手～

【推理将棋・プルフゲーム】

今期は16手以上の作品が1作(20手)のみでしたので手数による区分分けをせずに投票をお願いします。

以上4部門となります。

【投票の仕方】

お気に入り投票として実施しますので何作投票していただいても構いませんが、お気に入り上位3作には1位～3位までの明記下さい。投票の際には集計間違いを防ぐため下記の項目を記載いただくと助かります。

- ・ 部門名
- ・ WFP何月号(または何号)
- ・ 作品展名(またはコーナー名)
- ・ (あれば)作品番号
- ・ 作者名&ルール名&手数
- ・ 投票作品へのコメント(部門別及び全体通してのコメントも出来ればお願いします)

*なお対象作品一覧には通し番号を打っていますのでそちらの記載でも構いません。

【投票集計方法】

投票順位に応じて作品毎に下記ポイントを加算し、各部門での合計ポイント順に授賞します。

- 1位：5点、
- 2位：3点
- 3位：2点
- 上記以外：1点

各部門得票数上位3作までが授賞となります。作者に授賞コメントをお願いすることになりますのでご協力よろしくをお願いします。

選考ではありませんので、全部の作品を見てなくても構いません。お気に入りの作品をお好きなだけ書いて投票いただければ結構です。1票でも得票がある作品はすべて5月号に掲載いたします。今年もたくさんの投票をよろしくお願いいたします。

今川健一氏追悼出題

たくぼん

「隅の老人 B さんに捧ぐ」

強欲詰 25手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							王	皇	一	
							角		皇	二
							香	歩		三
							香		香	四
							歩	爵		五
										六
										七
										八
										九

持駒 金銀

今川健一さんが 2018 年 2 月 24 日にお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り致します。今回、ペンネームでもある「隅の老人 B さんに捧ぐ」と題して 1 作供養になるかはわかりませんが出題します。解答並びに、今川さんへの一言、思い出等を募集いたします。たくさんの方の解答でにぎやかに見送りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。(コメントのみでも可)

【強欲】駒を取る手を優先して着手を選ぶ。

*協力詰ではないのでご注意ください。

解答・コメント送り先

たくぼん (takuji@dokidoki.ne.jp)

解答締切：2017年 4 月 15 日 (日)

解答発表：次号

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

2018 年 4 月 15 日(日)

第 98 回 WFP 作品展

フェアリー作品 10 題

2018 年 5 月 15 日(火)

第 100 回 WFP 作品展 (一人一作展)

フェアリー作品 13 題

作品募集締切一覧

2018 年 4 月 15 日(日)

第 48 回神無一族の氾濫

テーマ：古典詰将棋と共通するテーマを持つ作品 (詳細は P19 をご覧ください)

2018 年 5 月 15 日(火)

Fairy if the Forest #55

課題：自由課題

投稿先：酒井博久

sakai8kyuu@hotmail.com

(詳細は P34 をご覧ください)

あとがき

先月、市村さんと佐々木さんの訃報を聞いたのに今月も今川さんの訃報を書くことになりました。とくに今川さんとは小川さんも含めて時々近況メールをやり取りしていましたのでショックは大きいです。闘病の話は聞いておりましたがまだまだお元気そうだったんですが。

来月、追悼文を載せる予定です。昔の結果発表での今川節の短評を読み直して見ます。

2018 年 第 117 号

Web Fairy Paradise

非売品

平成三十年三月号

平成三十年三月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合せ先 takuji@dokidoki.ne.jp